

青森博物研究会會報 第六號
(昭和十三年二月) 別冊

十和田・八甲田に於ける
兩棲類の分布状態

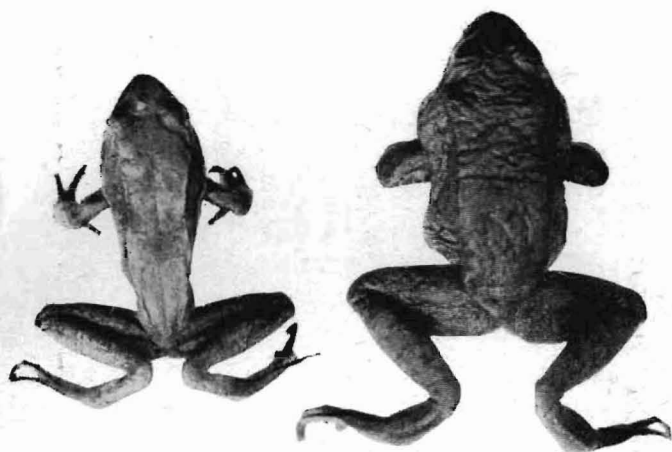
和 田 千 藏

贈

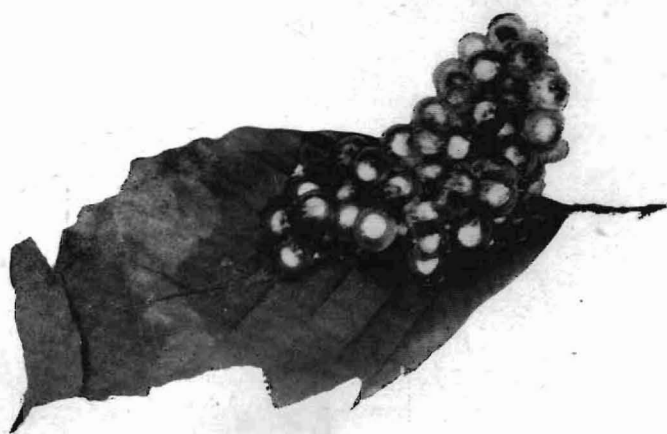
呈

佐藤
三
十
雄
梯

著者



八甲田山のタゴカヘル
(左は雄、右は雌の背面)



八甲田山タゴカヘルの卵塊
(ブナの葉に産み付けられて容易に離れず)

十和田八甲田に於ける 兩棲類の分布状態

和田 千 藏

余は一九三一年八甲田山に於ける脊椎動物目録(1)中に兩棲類の有尾類四種、無尾類四種、合計八種をあげたが、一九三五年渡邊福壽氏は十和田八甲田の動物目録(2)に於て無尾類に養殖のウシガヘルを加へ五種とし合計九種とされた。然るに余は一九三五年以降三ヶ年に亘り、八甲田山の外に十和田湖附近の調査に着手し、殊に一九三七年には六月(二日間)、七月(三日間)、八月(五日間)、の都合三回十日間出張し、八月には南八甲田(楢ヶ峯連峯)から十和田湖にかけて色々と調査をした結果、從來見逃してゐた蛙の分布地や産卵場が逐次判明した。今般新に判つた蛙は十和田湖畔の三種と從來疑問視してゐた八甲田山の一種とを合計して四種となつたので、それに從來の有尾類四種を加へると合計十二種の兩棲類が十和田、八甲田方面に棲息することになる。

I. 十和田八甲田の兩棲類目録

1. 有尾類 CAUDATA

A. 山椒魚科 Hynobidae

- | | |
|--|------------|
| (1) <i>Hynobius lichenatus Boulenger</i> | トウホクサンセウウヲ |
| (2) <i>Hynobius nigrescens Stejneger</i> | クロサンセウウヲ |
| (3) <i>Onychodactylus japonicus (Houttuyn)</i> | ハコネサンセウウヲ |

B. 蝾螈科 Salamandridae

- | | |
|---|-----|
| (4) <i>Triturus pyrrhogaster (Boie)</i> | キモリ |
|---|-----|

2. 無尾類 ANURA

A. 蟾蜍科 Bufonidae

- | | |
|---|-------|
| (1) <i>Bufo vulgaris formosus Boulenger</i> | ヒキガヘル |
|---|-------|

B. 雨蛙科 Hylidae

- | | |
|---|----------|
| (2) <i>Hyla arborea japonica Guenther</i> | ニホンアマガヘル |
|---|----------|

C. 赤蛙科 Ranidae

- (3) *Rana nigromaculata nigromaculata* *Hallowell* トノサマガヘル
- (4) *Rana temporalis ornativentris* *Werner* ヤマアカガヘル
- (5) *Rana tagoi* *Okada* タゴガヘル
- (6) *Rhacophorus schlegelii schlegelii* (*Guenther*) シュレーゲルアヲガヘル
- (7) *Rhacophorus schlegelii arborea* (*Okada et Kawano*) モリアヲガヘル
- (8) *Polypedates buergeri* (*Schlegel*) カジカガヘル

上記の如く有尾類四種、無尾類八種、合計十二種の兩棲類が國立公園十和田、八甲田方面に棲息してゐることが判つた。

尚これに養殖してゐる *Rana catesbiana* 即ちウシガヘル (Bull Frog) を加へると十三種になる。此の内無尾類の (2)、(3)、(5)、(6) の四種は同地方産として今迄發表されてゐないから特に説明し、他は既に發表されてゐるから分布地點だけを述べ、風致と關係あるものは少し詳細に説明致し度い。

I. 生態的分布

モリアヲガヘル、ヤマアカガヘル、ヒキガヘル、カジカガヘル及びサンセウワ類は同地域を通じて棲息してゐるが、トノサマガヘル、ニホンアマガヘル、シュレーゲルアヲガヘル、タゴガヘル等は一地域を限つて棲息して居ることが判る。

(1) キモリは八甲田山では一三四〇米の高度にすら分布するが十和田湖鳶沼等には一番多く、一〇〇〇米より高くなると次第にその数が減つて来る。乗鞍岳山腹一一一〇米の黄瀬沼(太田沼)にも相當泳いでゐるが、どの沼でも岸の方に多く集つてゐる。高田薮(九七〇米)の濕原にも随分ゐるのでモリアヲガヘルの卵塊を飽食して静止して居るのも見られる。

(2) クロサンセウワは低い所には少い。十和田湖では少數岸の方に見へるが、八甲田山では一五五〇米の鏡沼は有名な蕃殖地で、六月上旬から見事な産卵をするので山の人達はこれを戸和田(奥山の水溜の義)の餅と呼び卵塊の多少によつてその年の豊凶を判斷することになつてゐる。産卵期以外には方々を漂行し一五八四米の八甲田大岳の頂上で捕へたこともある。

(3) トウホクサンセウウツはこの類の中で一番分布が廣い。田代馬立場附近の清水の湧いてゐる所には一番多く、萱野茶屋の用水井（泉）にも六月上旬から産卵するし、十和田街道の路傍水溜にもあちこちと産卵してゐる。亦南八甲田の黄瀬沼にも横沼にも産卵してゐる。海拔面高度からいふと一五八四米迄漂流し附近の巨石下に隠れてゐることが往々見つかる。

(4) ハコネサンセウウツは一五八四米の高所で捕つたこともあるが一般に少い。産卵場は溪流であるが八甲田山では居線澤（田茂范澤六七〇米P H 7.0）附近が著名な産地である。

(5) ヤマアカガヘルは何處でも見つかる。水溜にだらしないやうに産卵してゐるが、海拔高度は一五五〇米の高所に達し性勇悍で飼育中カナヘビを呑んだ事もある。

(6) ヒキガヘルも極めて普通なもので體の色彩は様々變化してゐるが、路傍でも林中でも濕原でも 6~7 月の頃にはよく見當るもので、赤蛙と同様路傍排水路に澤山産卵する。而して一番見事なのは奥入瀬溪流の路傍排水路の中で 1 雌に 20 餘の雄が寄り重なつてゐる交尾團が所々に五月の末頃に見られることである。中には雄を離して見ると雌が死んでゐたのもあつた。この蛙とヤマアカガヘルの蝌蚪は十和田道路至る所の排水路や路傍の水溜に生育してゐる。八甲田山で酸湯大岳と井戸岳の鞍部に當る高砂の座敷といふ所の溶雪水の溜る所に、數十匹のヒキガヘルとヤマアカガヘルが産卵するが、雪がなくなる頃には水も蒸發透下して乾くため卵や蝌蚪は皆枯死し、その慘狀實に氣の毒な程である。

(7) モリアヲガヘルは同地域一帯に棲息してゐるものであるが、その産卵場は湖畔や池沼畔である。一番高い産卵場は八甲田大岳の鏡沼（一五五〇米）で低い所は奥入瀬溪流の路傍（約三二〇米）らしい。萱野茶屋の用水溜（五二〇米）には昭和六年頃から二番位六月中旬頃から産卵する。田代温泉の新湯附近にも點々産卵する。鳶沼畔、赤沼畔（八甲田瑠璃湖）、黄瀬沼畔、横沼（一一三〇米）畔、谷地温泉、猿倉温泉、酸ヶ湯温泉附近、馬立場（雪中行軍遭難記念銅像所在）、八甲田山の毛無岱、仙人平、高田菴、黄瀬沼菴、奥瀬菴、十和田湖畔（子ノ口火口瀬、小疊石、字樽部等）等に産卵する。十和田湖畔子ノ口水門附近の青葉に六月下旬から七月上旬に風船玉のやうな卵塊を産むのと、小疊石附近の樹蔭でコロコロ、コロコロと合叫する音楽とは如何にも深山の妙味を湖水の風景美に添ふる如くで全く自然の驚異と讃せざるを得ない。

(8) カジカガヘルは溪流にゐるため制限されてゐるやうであるが、十和

田湖畔に鱉産することは一寸珍しいけれども何處にでもゐるといふわけではなく、子ノ口の湖畔から小疊石附近の湖岸一帯玉石の濱をなしてゐる所に數百のカジカガヘルが居る。去年(一九三七)七月上旬には旺んに鳴合をし人が接近すると急いで水中に潜入してしまう。次に有名な所は鳶川の末流と奥入瀬溪流である。徒歩で溪流を極むる時は該蛙の鳴合によつて大いに慰められる。宇樽部小學校前の水田用水路にも相當數の同蛙が居て鳴き噪いでゐる。八甲田路線の寒水澤溪流にも少しは居る、田代新湯には澤山居るので夜提灯の光に集まつて來るからこれを押へて商賣にした人も以前あつた位である。奥入瀬溪流と鳶川尻のものは聲が宜しい。

(9) シュレーゲルアヲガヘル、ニホンアマガヘル、トノサマガヘルは、從來十和田湖附近には居ないと思つてゐたが、昨年(一九三七)やつとこれ等平地種も居ることが判明した。その場所は十和田湖畔宇樽部小學校前の田圃で、ここは極めて小面積の開墾された水田で背後は直ちに森林になつて居る西向の場所である。同所にはこの三種の外にモリアヲガヘル、カジカガヘル、ヤマアカガヘル、ヒキガヘル等が混棲し、生態的分布上注目すべき所で十和田湖畔の蛙集會所とも謂ふべき所である。このカジカガヘルは溪流の音と競争しないために聲が低調である。シュレーゲルアヲガヘルとモリアヲガヘルと生態的に分布を異にする兩種が同一地帯に混棲する故其の環境を明にしなければならぬが之は他日の研究に譲ることとする。

(10) タゴガヘル(タゴアカガヘル)は酸湯街道寒水澤(金太郎澤)の橋附近(約六五〇米)の湧水地に産卵してゐる。余は昭和四年六月と昭和十一年六月(何れも上旬)に此所から採取したが、去年の夏信州の飯田中學校宮下忠義氏から頂いた標本と全く同一の形態をしてゐたのでやつとタゴガヘルであることが判明した。この蛙は分布上珍しいもので今迄は鹿兒島、愛媛、和歌山、奈良、岐阜、長野の諸縣に發見されたので、四國、九州、本州中南部地方に分布するものとされて居たが、八甲田山からも捕れたから本州、四國、九州に分布することになるのである。而も東北地方ではまだ見つからないものが十和田國立公園内に産するといふ事は又誇りとすべきである。タゴガヘルといふ名稱は採取者田子勝彌氏を記念するために付けられたものだといはれてゐる。これは何處にでも居るといふ普通のものでないから登山者は心して保護しなければならない。

Ⅱ. 結 び

(1) 十和田國立公園内には有尾類四種、無尾類八種、合計十二種の兩棲

類が居る。この外薦温泉で養殖してゐるウシガヘルは附近を漂行し、外の仔蛙を呑喰してゐる。

(2) 十和田國立公園内の温泉附近にはモリアヲガヘルが多く産卵する。

(3) 十和田湖畔宇樽部落前の水田はモリアヲガヘル、シュレーゲルアヲガヘル、ニホンアマガヘル、トノサマガヘル、カジカガヘル、ヒキガヘル、キモリ、トウホクサンセウウヲ等多種の兩棲類が混棲する天然の動物園である。

(4) 八甲田山路線寒水澤橋附近はタゴガヘルの産卵場であると同時に、現在ではこの蛙の世界最北限分布地點である。故に該蛙の分布は青森縣迄延長したことになる。

(5) 十和田湖畔子ノ口沿岸の玉石濱には水中にカジカガヘル、樹上にモリアヲガヘルが棲んでゐるのも珍しい。

本稿を草するに際し信州産タゴガヘルの標本を贈與下された宮下忠義氏及び、宇樽部のニホンアマガヘル採取に助力して下さつた石橋重人氏に深甚の謝意を表する次第である。

参考にした文獻

- (1) 和田 千藏 八甲田山に於ける青蛙の研究 1931.
- (2) 渡邊 福壽 十和田八甲田の動物 1935.
- (3) 岡田彌一郎 日本産無尾兩棲類分布研究 動物學彙報 第11卷 第2號 100頁 1926(歐文).
- (4) 同 氏 日本産蛙の解説 動物學彙報 第11卷 第4號 271頁 1928(歐文).
- (5) 同 氏 日本産無尾兩棲類 1931 (歐文).
- (6) 沼尻 好 高野山の蛙 高野山中學校々友會誌三密 11—12頁 1928. (宮下忠義氏より借覽).
- (7) 和田 千藏 青森縣に於ける兩棲類の分布 青森博物研究會々報 第2號 41頁 1935.
- (8) 宮下 忠義 下伊那郡産タゴガヘルに就ての二三の觀察 信濃教育 Sept. 1936.
- (9) 佐藤井岐雄 日本動物分類 兩棲綱 有尾目 1937.